

第2章 香川県の自然環境と社会経済

- 1 自然環境
- 2 人口
- 3 経済
- 4 県民の意識

第2章 香川県の自然環境と社会経済

1 自然環境

本県は、昭和9年に日本で初めて国立公園に指定され、平成26（2014）年3月に80周年の節目を迎えた「瀬戸内海国立公園」の東部に位置し、四国の北東部にあります。面積は1,876.73平方km、全国に占める面積の割合は0.5%で、全国で最も小さい県です。

北は県花・県木のオリーブで知られる小豆島をはじめ、現代アートの聖地として世界的に有名な直島など、大小110余の島々が「世界の宝石」と称される瀬戸内海に浮かび、南には讃岐山脈が連なり、讃岐山脈に源を発する多くの河川は、讃岐平野を北流して瀬戸内海に注いでいます。

気候は、典型的な瀬戸内式気候で、年平均気温は16℃前後と比較的温暖であり、年間日照時間は2,288時間（平成25年）と全国上位にあります。降水量は少なく、地震・台風などの自然災害も比較的少ない一方、河川の流路延長が短く、水資源に恵まれていないことから、県内には満濃池をはじめ、大小約1万4千のため池が点在し、円錐状の美しい小山とともに、特徴ある景観をなしています。

土地利用は、讃岐平野を中心に田畑やため池からなる農業地域が広がり、平野部の山々や讃岐山脈をはじめ、瀬戸内海に浮かぶ島々でも森林地域が形成されています。これらの緑や水辺に囲まれた県土は、交通手段の発達に伴う生活圏、行動圏の拡大により、自然的、社会的、経済的条件のいずれにおいても一体性が強く、全県的に高度な土地利用が行われています。

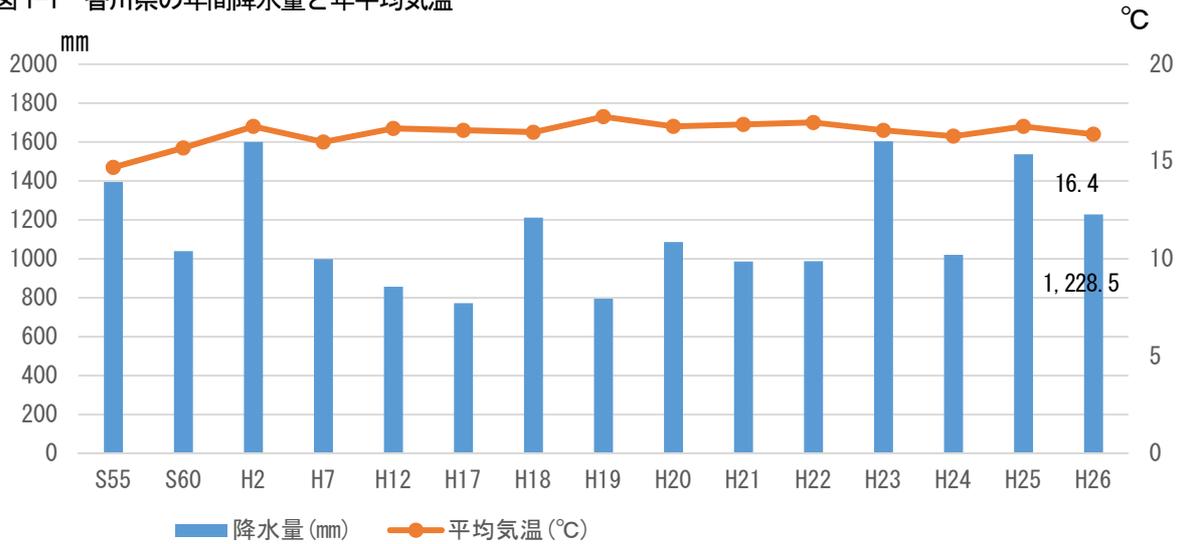


瀬戸内海



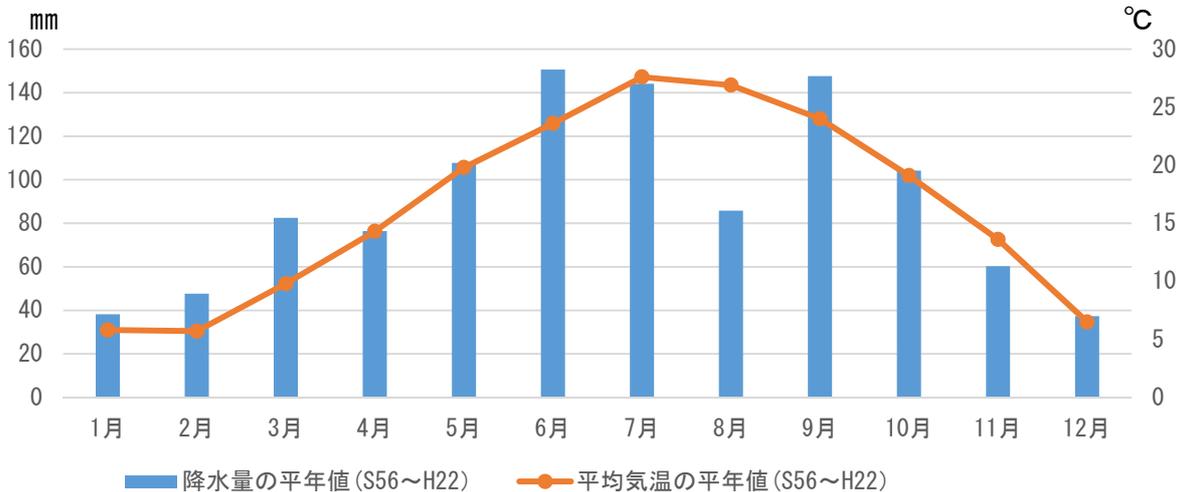
讃岐平野

図 1-1 香川県の年間降水量と年平均気温



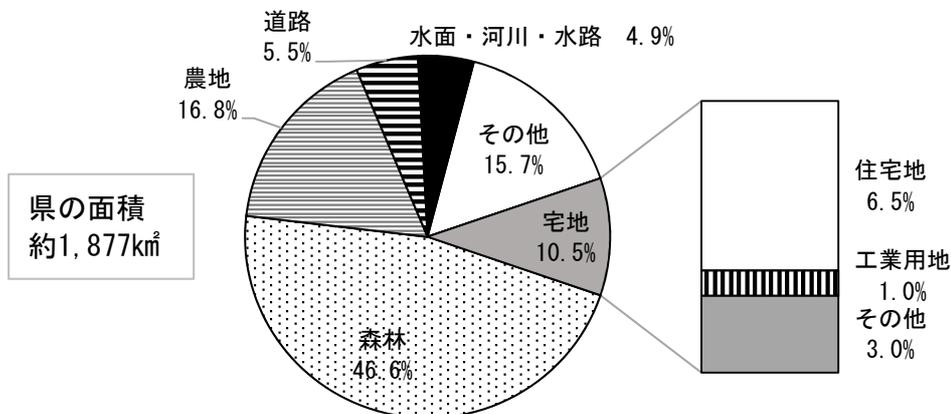
資料：気象庁 「各種データ・資料（高松）」

図 1-2 香川県の月別平均降水量と月別平均気温



資料：高松地方気象台「香川県の気象(平成 26 年 高松)」

図 1-3 香川県の土地利用状況



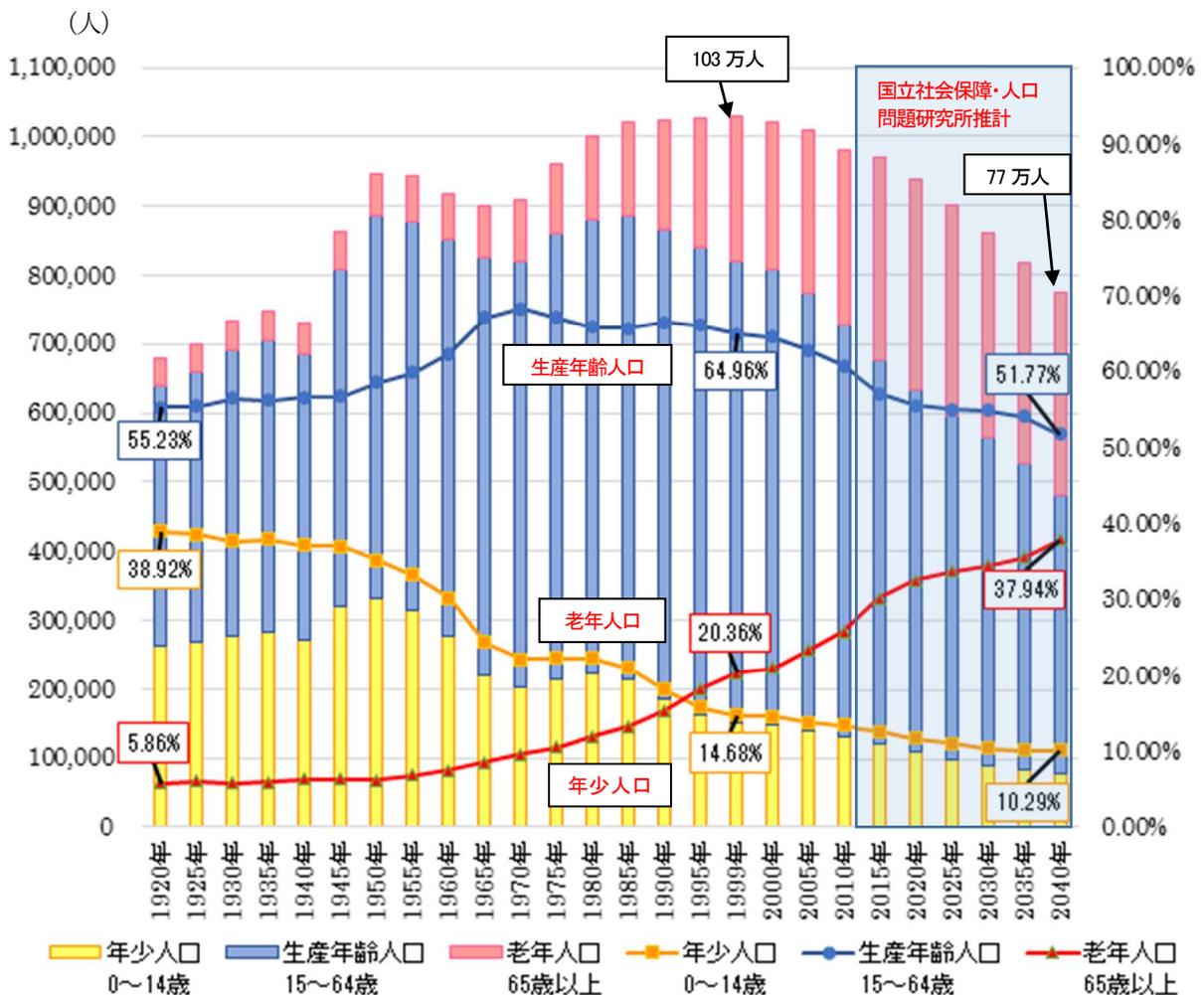
資料：平成 26 年度土地利用現況把握調査(平成 25 年時点)

2 人口

香川県の人口は、平成 11(1999)年の約 103 万人をピークとして減少に転じ、平成 26(2014)年の人口は約 98 万人と、平成 12(2000)年以來 15 年連続の減少となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、現状のまま何も対策を講じなければ、平成 52(2040)年の香川県の総人口は約 77 万人にまで減少し、今後、減少スピードは加速的に高まっていくと見込まれており、また、年齢 3 区分別にみると、将来を支える年少人口(0~14 歳)は、今後も減少し、平成 52(2040)年には 8 万人を割り込むと予測され、地域を支える生産年齢人口(15~64 歳)も、平成 52(2040)年には約 40 万人にまで減少すると予測されています。一方、老年人口(65 歳以上)は、平成 27(2015)年以降、30 万人前後で推移すると予測されていますが、次の世紀には人口増社会を展望できるよう、人口減少の克服と地域活力の向上をめざし、幅広く人口減少対策を講じています。

図 2-1 年齢 3 区分別人口の推移 (香川県)



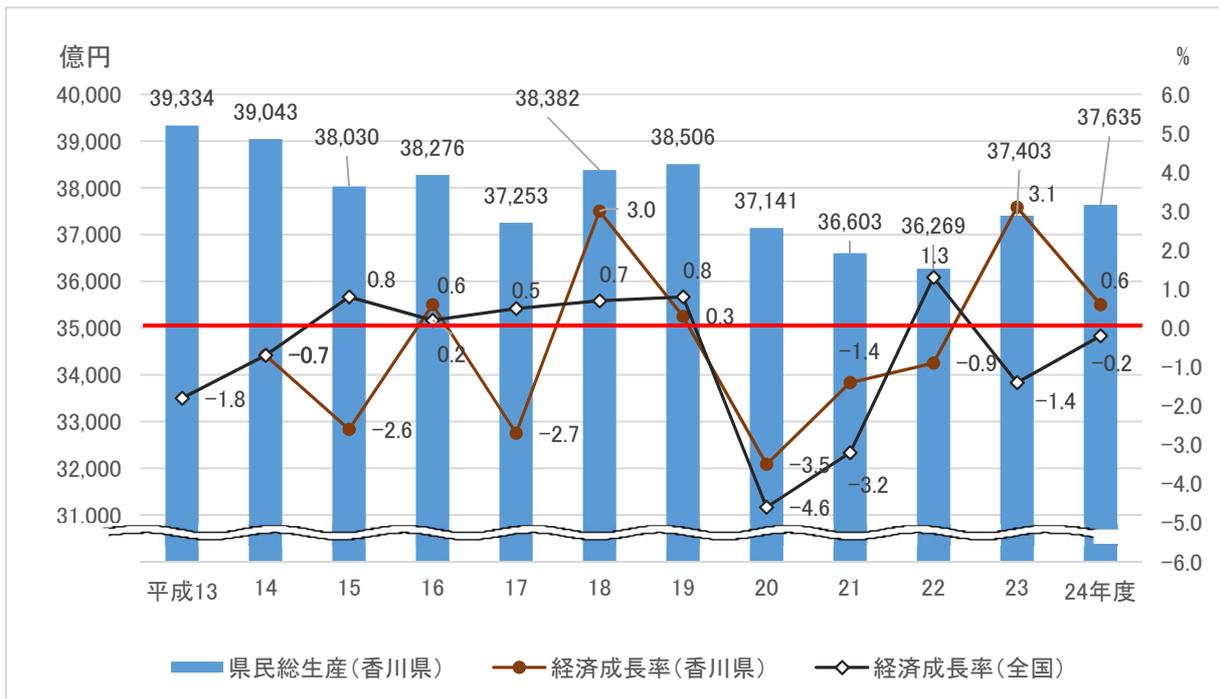
資料:総務省統計局「国勢調査」
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (平成 25 年 3 月推計)」

3 経済

本県の平成24年度の県内総生産（名目）は3兆7,635億円となっており、対前年度増加率（経済成長率）は0.6%と2年連続でプラス成長しています。物価変動分を除いた県内総生産（実質）は4兆371億円で、対前年度増加率（経済成長率）は1.7%と3年連続のプラス成長となっています。

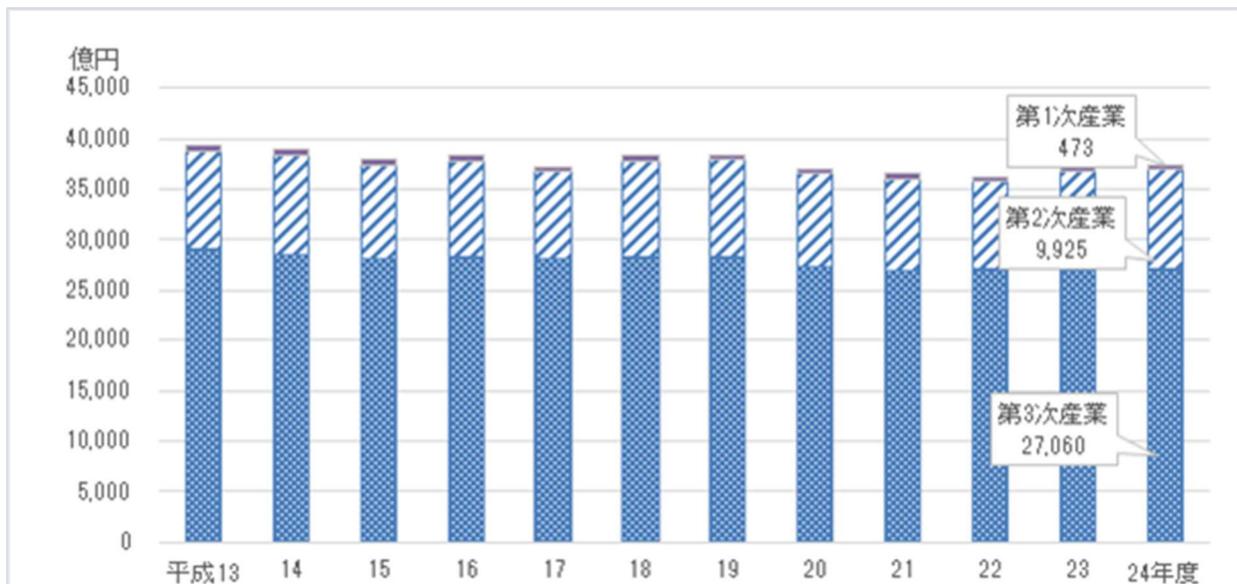
県内総生産を産業別にみると、平成24年度で第1次産業が1.3%、第2次産業が26.4%、第3次産業が71.9%となっており、第3次産業の生産額の割合が多くを占めています。

図3-1 県内総生産額と経済成長率（名目）



資料:平成24年度香川県県民経済計算

図3-2 産業別県内総生産（名目）の推移



資料:平成24年度香川県県民経済計算

4 県民の意識

今回の香川県環境基本計画の策定にあたって、県民の環境に対する評価や関心、環境問題に関する考え方及び環境配慮の取組状況などを把握するため、平成26年6月に県政世論調査を実施し、結果は次のとおりです。

環境に関する満足度・重要度について

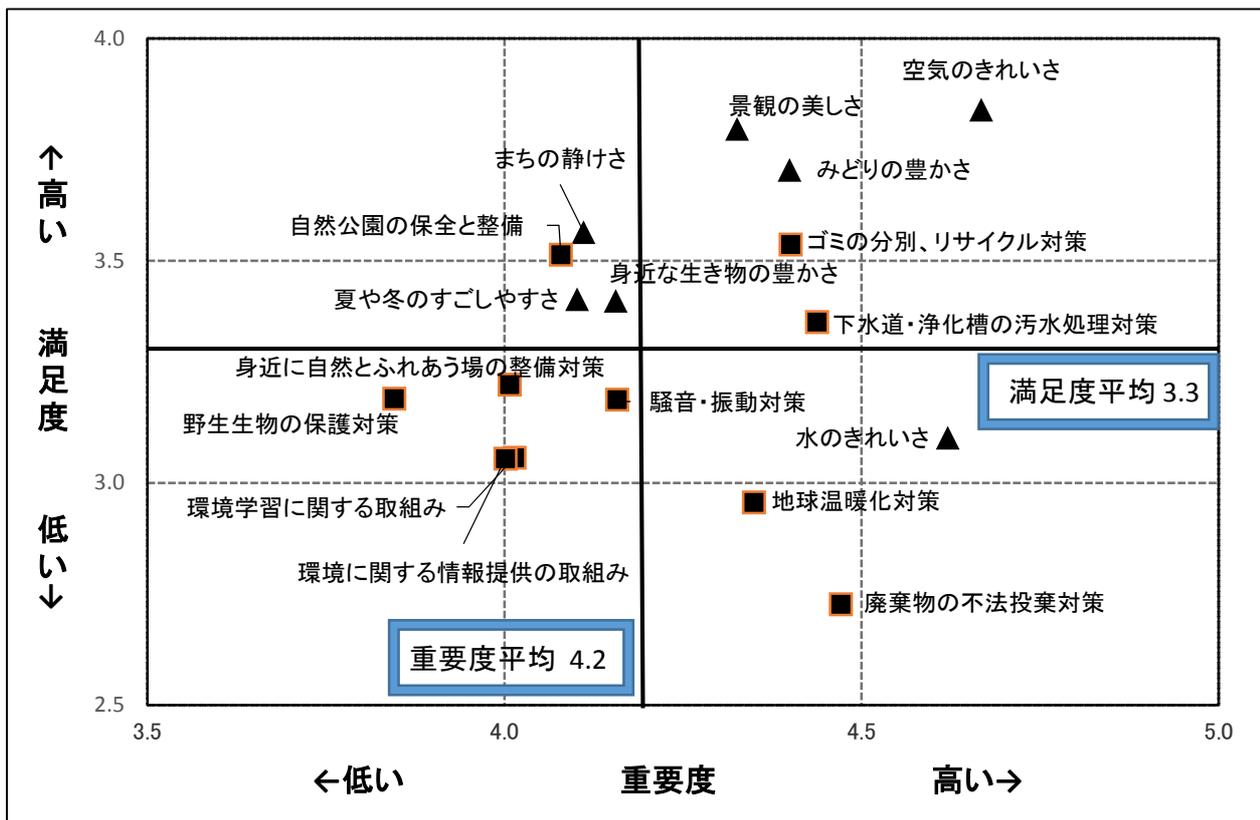
環境に関する満足度・重要度の結果は下の図のとおりです。

環境全般に対する県民の重要度の平均は4.2で、「まあ重要である」評価となっている一方、満足度の平均は3.3で、「どちらともいえない」評価となっています。

個別項目でみていくと、満足度・重要度ともに高いのは、『空気のきれいさ』や『みどりの豊かさ』、『景観の美しさ』等身のまわりの環境の項目が多くなっています。また、重要度が高く満足度が低いのは、『廃棄物の不法投棄対策』や『地球温暖化対策』など、行政の環境への取組みの項目が多い結果になっています。

図4-1 環境に関する満足度・重要度の散布図

(回答者数 1,522人)



▲は『身のまわり環境』の満足度・重要度を、■は『行政の環境への取組み』に対する満足度・重要度をそれぞれ表しています。わかりやすくするために、満足度と重要度の平均ラインを入れています。

【参考】

平均値の算出について

満足度・重要度のそれぞれの選択肢に得点を配分し、設問ごとに平均値を算出しています。

満足度	重要度	得点配分
満足している	とても重要である	5
やや満足している	まあ重要である	4
どちらともいえない	どちらともいえない	3
やや不満である	あまり重要でない	2
不満である	全く重要でない	1

満足度
平均値

$$= \frac{\text{「満足」} \times 5 + \text{「やや満足」} \times 4 + \text{「どちらともいえない」} \times 3 + \text{「やや不満」} \times 2 + \text{「不満」}}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

